

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 11月 16日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170502827		
法人名	有限会社 ASコンサルタント		
事業所名	グループホーム 弥生		
所在地	札幌市白石区北郷5条4丁目9番20号 (電話)011-879-5810		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年11月10日	評価確定日	平成21年11月27日

【情報提供票より】( 21年 9月 9日事業所記入 )

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 12人、非常勤 6人、常勤換算	14.5人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3階建ての 1~2 階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費:25,000円 暖房費:5,000円(11-3月)
敷 金	有( 96,000 円 ) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円 ) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

### (4) 利用者の概要( 11月 10日現在 )

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護 1	0 名	要介護 2	3 名
要介護 3	10 名	要介護 4	2 名
要介護 5	3 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 84.8 歳	最低 76 歳	最高 94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	厚生診療所、東札幌病院、ドゥケア歯科矯正クリニック
---------	---------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

介護度の高い利用者が多いが、食事、排泄、入浴など生活の基本を考慮し、体を動かすことや楽しみを見出し、看護師を中心とした利用者の健康管理を支援し、本人と家族の安心の住まいとなっている。食事は職員が多彩な食材を使用した献立を心掛け、調理師の資格を活かした職員の指導で満足度の高い食事を提供し利用者に喜ばれている。運営推進会議は年間計画に沿って定期的に開催され、地域の連携が充実し、災害訓練の協力体制が良好である。地域の中学校の職業体験の受け入れや、祭の神輿休憩所として利用され、地域の中で信頼度の高い事業所となっている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 職員を育てる取り組みについては、研修会を日中の時間帯に変えて高い出席率で行うことで、一般職員の研修実績を増やすように努めている。今後も年間の内部研修計画をたて、充実した内容で継続的に取り組んでいく意向である。同業者との交流を通じた向上は管理者が前向きに取り組み、近隣の同業者と交流を行っている。プライバシーの確保の徹底は、面会簿をカード形式にするなど改善がある。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 各職員が記入した自己評価表を管理者がまとめ上げ、全職員で再確認して作成している。1年未満の職員は難しい項目もあったが、ミーティングなどで話し合うことで評価の意義の理解を深め、職員は日々のケアの振り返りの契機になっている。今後も職員全体の理解を深め更に日々のケアに活かされるように期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は年間計画を立案し、2ヶ月毎に開催し、地域住民が関心をもって参加している。内容も一つひとつ積み上げて、地域と合同の避難訓練を実施するなど効果的な取り組みがある。話し合いの中から、地域密着型が活かされている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族等の面会時には管理者はじめ職員が気軽に話せるように声かけをし、利用者のことだけでなく、運営に関わる話があったときには活かせる方向で検討している。面会の少ない家族とは電話で連絡をとっている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 事業所は町内会に加入し、行事の参加のみならず日頃から良好な連携がある。町内関係者の運営推進会議への出席率も高く信頼も得ている。また、近隣の中学校の職業体験の受け入れも定着している。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所は開設から、地域の中の位置付けを考えた独自の運営理念とケア理念を作成し、実践に取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケア理念は分かりやすい言葉で、玄関やユニット内に掲示され、職員の日々のケアに活かされている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は町内会に加入し、行事の参加のみならず日頃から良好な連携がある。町内関係者の運営推進会議の出席率も高く信頼も得ている。また、近隣の中学校の職業体験の受け入れも定着している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各職員が記入した自己評価表を管理者がまとめ上げ、全職員で再確認して作成している。1年未満の職員は難しい項目もあったが、ミーティングなどで話し合うことで評価の意義の理解を深め、職員は日々のケアの振り返りの契機になっている。		経験年数により評価の理解度に違いがあるということなので、今後もミーティングなどで取り上げることで理解を深め、更に日々のケアに活かされるように期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年間計画を立案し、2ヶ月毎に地域住民を交えて活発に開催されている。内容も一つひとつ積み上げて、地域と合同の避難訓練の実施など効果的な取り組みがある。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は市や区の担当者に実情やサービスの状況報告などを行い、関係をつないでサービスに活かしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせて報告をしている	「弥生新聞」を隔月に発行し、利用者の日常の暮らしや行事の様子など家族に知らせている。また、金銭明細についても報告している。さらに面会時には職員の異動なども話している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の面会時には管理者はじめ職員が気軽に話せるように声かけをし、意見を聞くようにしている。面会の少ない家族とは電話で連絡をとっている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者や家族が不安にならないように、できる限り職員の異動は最小限にしているが、代わる場合は利用者個別に配慮をしてダメージを防ぐように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には多くの職員が参加できるように配慮し、積極的に職員を育てる取り組みを行っている。内部研修も日中に行うことで、多くの職員が参加し、研修報告や認知症についての勉強会などの研修が工夫して行われている。		今後は、年間の内部研修の計画を立てて取り組む予定なので、更なる内部研修の充実を期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとは日常的に関係をもち、情報の交換などを行っている。また、区内の連絡会議などケアサービスに関する意見交換をしたり、質の向上を目指した取り組みをしている。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者は安心して利用が開始できるように、見学や生活に馴染んだり、話し合いを十分とり、納得後入居をしている。さらに、最初は細かい配慮で支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は人生の先輩として教わりつつ、共感したり笑ったり、共に暮らす仲間として相互に支え合う関係を大切にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりの中で利用者に寄り添い、声をかけて、思いの把握に努力している。本人のみでなく家族や関係者からも情報を得るようにしている。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用開始時は、管理者とリーダーが中心となり暫定計画を作成し、1～2ヶ月で見直しを行っている。介護計画は、事業所独自の様式を作成して、医療関係者や家族、本人の意向や要望を聞き、職員で話し合いながら作成し、家族の来訪時に説明をして署名捺印を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は、日々の記録や評価結果を基本にして3ヶ月毎に見直しを行っている。入退院や骨折、精神状態や体調変化に応じて、随時現状に即した新たな介護計画を作成している。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>家族が宿泊できる部屋や寝具が用意されており、今までも遠方の家族が宿泊するなど活用されている。利用者がお墓参りに行く時に自宅まで送迎するなど、柔軟な個別支援を行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間の医療連携体制をとり、利用者が適切な医療を常に受けられるように支援している。かかりつけ医は本人や家族の希望に応じて決め、職員が通院介助を行うなど柔軟に支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合の対応に係わる指針」を作成して入居時に説明を行い、本人や家族に意思確認をしている。重度化した場合は、本人や家族、協力医療機関の医師を交えて、対応の方向性を決めることで方針を共有している。協力医療機関の意向で、緊急時を除いて事業所としては看取りを行わない方針である。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の声かけや後始末などは、他の利用者に気付かれないようにさり気なく行うように配慮している。個人情報に関する書類は事務所で鍵をかけて保管し、取り扱いに注意をしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間やレクリエーションなど基本的な1日の流れはあるが、利用者のペースに応じて支援している。利用者の希望で買い物や美容室に出かけたり、夜間の盆踊りなどの外出にも柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の開始・終了の挨拶を利用者中心に順に行うことで、全員で楽しく食事ができるような取り組みをしている。職員は食材を見て調理し、食後に献立を記載し全体のバランスを把握している。片付けなども利用者が積極的に関わっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	往診日などを除いて週5日を入浴日とし、利用者の状況や希望に応じて朝や夕方でも入浴を実施している。入浴は週2回以上を基本として、介護度の高い利用者は2人介助で入浴を行い、衛生面と安全に配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の下ごしらえや後片付け、冬季には除雪など個別の特性を活かした役割を持って生活できるように工夫している。散歩の帰りに好きな喫茶店に立ち寄るなど、利用者の生活歴を把握して気晴らしができるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏季の天気の良い日は、利用者の体調やレベルに応じて散歩するコースを選んで毎日外出できるように支援している。年間行事にも工夫があり、花見や紅葉狩りに出かけたり、外食の機会も計画を立てて実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全体玄関や各ユニット玄関にチャイムを設置して出入りを把握し、夜間以外は施錠をすることなく利用者が自由に外出できるようになっている。居間や台所から利用者の出入りを把握して、安全面に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火訓練や避難誘導の自主訓練と、消防署の協力の下総合訓練を行っている。火災発生時などに備えて町内会緊急連絡網を作成すると共に、今年度は初めて町内会と合同で夜間を想定した避難訓練を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活記録に水分と食事摂取量を個別に記録して把握している。食事は利用者に応じて刻み食を提供したり、水分摂取が少ない利用者には好みの飲み物などで摂取できるように工夫している。献立は、年間2回ほど職員（調理師）が栄養チェックをしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の大きな窓からは明るい光が注ぎ、戸外の様子も身近に感じることができる。対面式のカウンター越しには食事の支度の様子や料理の匂いなど生活感を感じることができる造りになっている。廊下には、気の合う利用者同士でゆっくり会話ができるソファが置いてあり、利用者が居心地よく過ごせる工夫がなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入口に好みの暖簾をかけたり表札などで、利用者に応じて分かりやすいような表示をしている。居室内には、ベッドや布団などの寝具、テレビや椅子、タンスなど使い慣れた家具などが持ち込まれ、居心地よく安心の住まいとなっている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価表（様式1）を添付すること。